

学芸の森プロジェクト 勉強会「自然の声に耳をすませばーむさしのの花と鳥たち」

講師：浅間山自然保存会会長 山内哲夫 氏

浅間山自然保存会副会長 山田義夫 氏

府中野鳥クラブ会長 大室 清 氏

日時：2005年10月28日（金）18:00～19:30

場所：東京学芸大学 小金井クラブ

参加：20名

---

#### 山田義夫氏の講演ダイジェスト

##### 【浅間山の地理と歴史】

浅間山は府中市にある3つの小山からなる。最高部で海拔は80m、麓が50mであり、ちょうど小高い丘という感じの場所である。前山には遺跡が発掘されており、1万～3万年前に人類が暮らしていた場所である。また、この地帯は室町時代に足利尊氏が新田氏と戦った古戦場の一つでもある。浅間山には戦時中には隣接する東府中の燃料庫を守るため高射砲が設置されていた。

##### 【里山としての浅間山とムサシノキスゲ】

浅間山は昔は、いわゆる里山で、落ち葉が堆肥として利用され、計画的に間伐が行われ、適当な日照があり、多様な生物が成育するのに良好な環境であった。戦前は春～初夏には全山が真っ黄色になるくらいムサシノキスゲが咲き乱れていた。

なぜ、ムサシノキスゲが浅間山だけに残ったのかは、未だに謎である。ニッコウキスゲに非常に近いと考えられる植物だが、ニッコウキスゲが7月頃咲くのに対し、ムサシノキスゲは4月～5月にかけて花が咲く。5月の連休明けの頃が見頃である。また、ムサシノキスゲは、ほのかに甘い香りがするという人もいる。さらに、ニッコウキスゲは昼間しか花が開いていないのに対し、ムサシノキスゲは夜でもわずかに閉じるものの開いている点も異なっている。

##### 【浅間山の自然保存】

戦後になり、化学肥料が用いられるようになると、堆肥を作らなくなり、間伐も行われなくなった。この結果、樹木が大きく生長し日当たりが悪くなると共に、下草としてアズマネザサが生い茂るようになった。野草は姿を消し、ムサシノキスゲもほとんど見られなくなってしまった。

昭和56年に地元の人を中心となり、浅間山自然保存会が発足。浅間山自体は東京都の所有物のため、府中市は保護のために直接経費を出費できなかった。このため、市は市民団体に拠出し保護が行われるようになった。

保護の結果、今ではムサシノキスゲは浅間山に多く見られるようになった。特に北側斜面には多い。これは、ある程度の湿気を好むためと思われる。乾燥しやすい場所や、日が当たりすぎる南斜面にはほとんど生えていない。また、ムサシノキスゲが元に戻ったのと同時に、他の野草類も戻ってきた。キンラン、ギンラン、ヤマユリなどは随分増えた。

##### 【自然保護の問題点】

現在、気がかりなことは、ネコが浅間山に増えてきたことである。早朝など、コジユケイを追い回しているのがよく見かけられており心配している。野草の花を摘んでいく人もいる。根こそぎとらなければ、また翌年生えるのだがこれも困りものである。キンラン、ギンランについては、名前を書いた札を立てた。これにより、人々が「キンラン」であることを知り、知ったために採らなくなるという効果があった。知らない、ついつい摘んでみたくなることもあるようだ。本来なかった植物であるヒガンバナを植えた人がいるが、増加しつつあり困っている。

#### 【市民活動】

地域の人々と全山清掃、園路の清掃を年数回行っている。アズマネザサなどの下草狩りは機械を使う場合もあるが、市民参加の場合は鎌で刈る場合も多い。府中市グリーンフェスティバルへ毎年参加し、活動を紹介している。また、5月の第1、第2週にはキスゲフェスティバルで浅間山の案内などを行っている。間伐材をシイタケのコマ打ちに利用し、園路や全山清掃をしてくれた人にあげている。また、間伐は年間30本ほど府中市が行っている。太いものだと直径40cmほどである。本来ならもっと多く(150本/年程度)間伐したいのだがお金がない。予算は間伐の項目で計上はされず、管理と危険に対してのみ計上されている。バリアフリーのため間伐し、間伐材で木道を整備することでお金を取ったこともあった。

#### 【絶滅種】

浅間山が荒廃した結果無くなった植物には以下のものがある：タマノカンアオイ、ウメガサソウ、クチナシグサ、ネコノメソウ、オミナエシ、ヤマユリソウ、フデリンドウ、オノノヤガラ、ニヨイスミレなど。

#### 【絶滅危惧種】

リンドウ(3株ほどしかない)、オオバノトンボソウ(10株程度)、ツリガネニンジン(下草狩りにより少し増えている)、アキノタムラソウ、ジュウニヒトエ、シュンラン、ヤブレガサ、サイハイランなど。

#### 【学芸の森への提言】

今あるものを、そのまま生かすのでもよいだろう。ゾーンを作って、四季を楽しむ用にするのもよい。濃い緑の中で花があったり、鳥が飛んでいたり楽しい場所にするのもよいだろう。大きな森の中で、それぞれの小さな場所が見れるような工夫も欲しい。いつ行っても何かあるのがよい。また、散歩などしたときに休めるようベンチや彫刻などがあり、心の安らぎを感じられるようにしてはどうか。

### 大室 清氏の講演ダイジェスト

#### 【野鳥の会の活動】

多摩川を中心として1970年から例会を行っている。また、1993年からは多摩川の是政橋～大栗川間で定期観察会も行っている。浅間山・多磨霊園ではラインセンサス法により鳥の数の調査を行っている。調査によれば、夏から9月までは鳥の数が減るが、10月以降は個体数、種類数ともに増加することがわかった。調査期間で確認した鳥の数は浅間山・多磨霊園では変化が見られなかったが、多摩川では減少している(特にカモ類)。

#### 【自然観察について】

野鳥や植物など自然の観察から得ることは多い。学校の先生になる人には、そのような素養を身につけて欲しいものである。意外と学校の先生は、山へ入ると子どもの質問に答えられないことが多い。

#### 【グリーンコリドーについて】

国分寺崖線沿いに緑が発達している。浅間山と多磨霊園とも連続している。野川自然再生協議会というものがあり、一帯の自然環境を考えている。

#### 【野鳥の観点から見た自然環境整備】

生態系を考えない緑の管理が多く、多くの箇所で見られる。例えば、公園などでは役所の植物と動物の扱い部門が異なり、動物のことを考えていない植栽管理が行われる場合がある。樹木の選定では、防犯を優先するため、藪が無くなってしまい、その結果、藪に住む鳥が減少するが、これは生物種の保存と矛盾することである。

#### 【野鳥の住む森を作るために】

まず、計画のスタート時点で、鳥の種類数の記録をとるとよいだろう。これにより、計画の進行につれて、鳥が増えたかどうかを確認できる。建物を地形として考えることも必要である。コの字やロの字型の建物は鳥にとっては逃げ場がないため、鳥の中には入らない。野鳥は“住み分け”をして生息する。明るい林、暗い林、層状になった樹木の部分、まばらになった樹間のある部分、高木、中木、藪など、多様なゾーンを用意してやる必要がある。画一的な環境は鳥の種類数の増加にはつながらない。

#### 【野鳥を呼ぶために】

実のなる木を植えれば、確実に鳥はやってくる。しかし、通年野鳥が来ることを考えれば、実以外のことも考えなくてはならない。野鳥は実のみ食べるわけではなく、虫も食べる。虫は花や実が綺麗な木でなくとも発生する。コナラも交えて森を作るのがよいだろう。また、イカルはサワラの木に隠れる特性がある。水辺も必要である。水飲みや水浴びをする。また、鳥は砂浴びもするので、砂場も必要である。要は、あるがままの自然に近いゾーンを作ってやることである。

野鳥が好む実のなる木 25 選 (参考資料)

| 種名      | 落葉樹 | 常緑樹 | 花時期  | 実時期    | 実色寸法mm | 備考     |
|---------|-----|-----|------|--------|--------|--------|
| イチイ     |     | ○   | 4月   | 10月    | 赤8     | 木      |
| ヤマモモ    |     | ○   | 4月頃  | 6月     | 赤10~20 | 高木・雌雄株 |
| エノキ     | ○   |     | 4~5月 | 9月     | 赤褐色6   | 高木     |
| ムクノキ    | ○   |     | 5月頃  | 10月    | 紫黒12   | 高木     |
| オオシマザクラ | ○   |     | 3~4月 | 6~7月   | 紫黒     | 高木     |
| ハゼノキ    | ○   |     | 5~6月 | 9~10月  | 黄白10   | 高・雌雄異株 |
| モチノキ    |     | ○   | 4月頃  | 11~12月 | 赤10    | 高木・雌雄株 |
| ミズキ     | ○   |     | 5~6月 | 10~11月 | 紫黒6~7  | 高木     |
| カキ      | ○   |     | 5~6月 | 10~11月 | 朱50~90 | 高木     |
| サンゴジュ   |     | ○   | 6~7月 | 9~10月  | 赤黒7~8  | 高木     |
| クロモジ    | ○   |     | 3~4月 | 9~10月  | 黒6     | 低木     |

|         |   |   |      |        |          |        |
|---------|---|---|------|--------|----------|--------|
| マサキ     |   | ○ | 6~7月 | 12月    | 橙7~8     | 中木     |
| イロハモミジ  | ○ |   | 4~5月 | 9~10月  | 黄白2~3    | 高木     |
| ヒサカキ    |   | ○ | 3~4月 | 10~12月 | 紫黒4~5    | 中木     |
| リョウブ    | ○ |   | 7~9月 | 10~11月 | 褐色4~5    | 高木     |
| エゴノキ    | ○ |   | 5~6月 | 8~9月   | 褐色       | 高木     |
| トウネズミモチ |   | ○ | 6月   | 11~12月 | 黒紫       | 高木     |
| ガマズミ    | ○ |   | 5~6月 | 9~10月  | 赤        | 低木     |
| ニシキギ    | ○ |   | 5~6月 | 10~11月 | 橙赤       | 低木     |
| マユミ     | ○ |   | 5~6月 | 10~11月 | 橙赤       | 低木     |
| ウメモドキ   | ○ |   | 5~7月 | 11~12月 | 赤        | 低・雌雄異株 |
| エビズル    | ○ |   | 6~8月 | 9~10月  | 黒        | つる性    |
| アケビ     | ○ |   | 4~5月 | 10~11月 | 薄紫50~100 | つる性    |
| ツルウメモドキ | ○ |   | 5~6月 | 10~11月 | 黄赤7~8    | つる性    |
| ビナンカズラ  |   | ○ | 8~9月 | 10~11月 | 赤        | つる性    |

2005.10.27 作成

#### 【巣箱について】

シジュウカラには穴径 27-28mm、高さ 180mm の巣箱、アオバズクには穴径 110mm、そこから穴まで 450mm、辺は 250mm の巣箱を用意する。巣箱をかけたら、調査を行い、記録をとり、永続可能なシステム作りをすることが大切である。

#### 【鳥の数】

日本全国には 500 種の野鳥がいる。うち府中市で 20 年間で確認されているのは 200 種である（ちなみに大室氏は全国で 300 種ほど見たことがあるそうだ）。